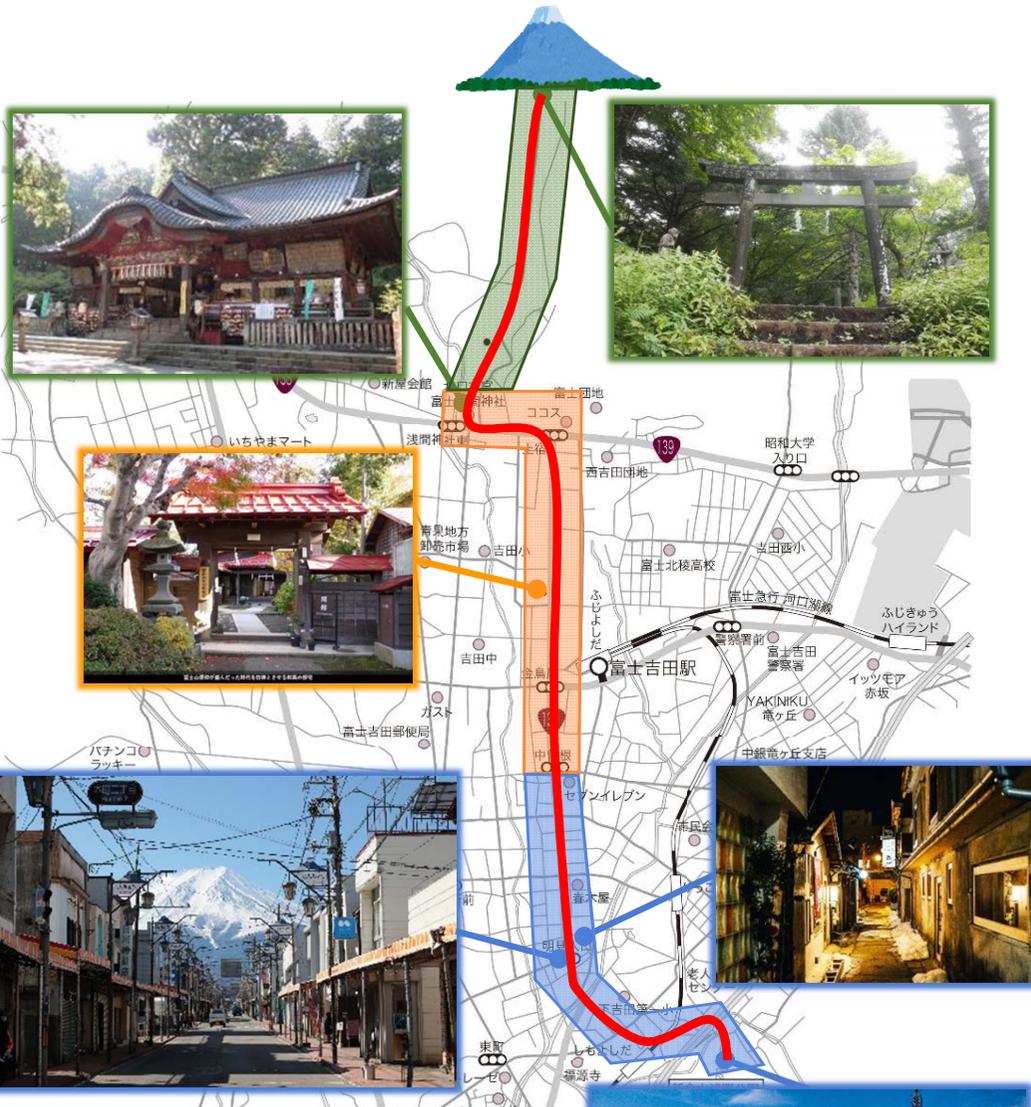


「富士みち」を軸とした脱炭素ツーリズムなまちづくり



山梨県
富士吉田市長 堀内 茂

「富士みち」について



背景

◎歴史

江戸時代半ばから庶民の間で富士山を信仰する富士講が盛んになると、富士講を受け入れる御師の町である上吉田地区は、日本橋を起点とした巡礼路「富士みち」の目的地として大いに賑った。

◎まちづくりの中心軸として

現在においても、「富士みち」はかつての富士山信仰の歴史を今に伝えるとともに本市を象徴する市民の拠り所として重要性を増しており、第6次富士吉田市総合計画においても、「都市シンボル軸」として位置付けている。

富士みちの現状

◎「富士山がきれいに見える商店街」

最近では、下吉田本町通り交差点は主に外国人に人気のフォトスポットとなっており、新倉山浅間公園と共に世界的に注目を集め、多くの訪日観光客が訪れている。



◎課題

オーバーツーリズムによるごみのポイ捨てとそれによる景観の阻害、CO2排出量の増加の問題や写真撮影だけして帰ってしまう等集まった人流が地域経済へつながっていない等の課題がある。

⇒富士みちの賑わいを本市の大動脈を通して人の流れをまち全体に呼び込めるよう、集中的、大規模に投資を行い、新鮮な血液をいきわたらせ市街地の活性化を推進する。

【中心市街地エリア】
昭和レトロでノスタルジックな街並に、カフェ、居酒屋、ショップ等が集積しているエリア
【御師まちエリア】
富士山信仰を起点とした御師のまちとしての街並みが残るエリア
【吉田口登山道エリア】
麓から山頂を目指すことのできる唯一の登山道のあるエリア



課題・本市の目指すあるべき姿



<本市の今後取り組むべき課題>

【可住地面積と土地利用】

総面積121.74km²に対し、**可住地面積は18.04km²(総面積の14.8%)**
加えて、**空き家の増加**などの課題もある。

利活用可能な**土地に限られる中での効率的・効果的な運用**

【少子化による人口減少や高齢化の進行の下での地域活力の維持】

地方共通の課題。

**積極的な人口減少対策、地域創生
移動・生活しやすい交通環境を形成**

【世界文化遺産富士山の保全と活用】

資源循環型社会の深化
富士山**世界文化遺産登録10周年**

**環境と共生した生活・産業スタイルの確立
多様性に富んだ富士山の楽しみ方の提案**

課題解決に向けた SDGsの取組(全体計画)

「富士山の麓のまちから先端技術を発信、普遍的価値を守る未来都市」

モデル事業

「富士みち」を軸とした
脱炭素ツーリズムなまちづくり

バックキャスト

2030年のあるべき姿

- 「富士みち」を中心としたまちづくりによる麓のまちの活力向上
・本市におけるまちづくりの中心軸として取組を展開
- 麓からの登山をはじめとした様々な富士山の魅力を掘り起こす
・サステナブルツーリズム推進
・地域資源のブラッシュアップと掘り起こし
- 世界文化遺産のあるまちとして脱炭素先端技術等を発信
・世界文化遺産富士山への理解向上と保全
・オーバーツーリズム等へのアプローチ
・ゼロカーボンシティ宣言都市として脱炭素先端技術への挑戦



根幹となるゴール・ターゲット

「11.4 世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。」

モデル事業について



経 済



◎課題：民間事業者の力の発揮と結集

【取組】

●テキスタイルと芸術が融合する国内唯一の布の芸術祭

『FUJI TEXTILE WEEK』



●市場のニーズを分析、地域の魅力を活かした商品開発

『ふじよしだまちづくり公社の地域商社事業』

●首都圏からの人流を生み出し関係人口の創出、企業進出を図る

『まるごとサテライトオフィス事業』



【効果】

●基幹・基盤産業と観光業の活性化と地域の魅力向上

●企業誘致、起業支援及び施設整備等の雇用の確保により関係人口を移住・定住に繋げていく

社 会



【課題】クリエイティブ人材の育成と集積

【取組】

●まちの魅力・産業・人を再発見、高い愛着と回帰意識を醸成

『郷土愛醸成プロジェクト』



●学びと切磋琢磨の機会創出、地域クリエイター集団の育成

『ITコンソーシアム設立によるインキュベーション』

●空き家を貸したい人と借りたい人を結びつけ、定住へつなぐ支援体制強化

『空き家バンクと定住奨励金制度』

【効果】

●シビックプライド・回帰意識の醸成

●IT人材の内製とクリエイティブ人材の集積による地域活力の向上

●UJIターンの促進

環 境



【課題】信仰の対象と芸術の源泉を継承

【取組】

●今に続く富士山の登山文化を、保存復元し複合的な価値を継承

『吉田口登山道の保存と活用』



●麓から登る富士山、眺める富士山、多様性のある四季折々の富士山の楽しみ方

『脱炭素ツーリズムの推進』

●富士山を食害から守り、有害鳥獣から加工品の製造を行い新たな地域ブランドを創出

『富士山ジビエセンター整備』



【効果】

●環境、文化の保全と活用

●旅ナカ時間の市内消費を増大、脱炭素ツーリズムの推進

●ネイチャーポジティブの推進、地域課題を解決するとともに新たな地域ブランドの創出

統合的取組「市内を抜け富士山へ続く一本道「富士みち」を世界一の道へ!事業」

統合的取組①新しい地域公共交通を生み出し住み続けられるまちを実現 富士みちへの自動運転EVバス社会実装



概要

◎2023年度自動運転レベル2実験実施

2023年度富士みちにおいてレベル2実証実験を実施。**将来的なレベル4社会実装**に向け、経営面、技術面、社会受容性面について多角的な検証を行った。

※国土交通省地域公共交通確保維持改善事業費補助金(自動運転実証調査事業)

実証実験にあたり、事業者や、他自治体での導入実績のある団体から技術支援を頂くなど、多種多様なステークホルダーと連携し、社会実装に向け準備を進めている。

◎社会実装に向けた次のステップへ

2024年度も引き続き、レベル4社会実装に向けた次のステップとして公道での運用および乗車定員、渋滞状況、道路勾配、天候・歩行者(特に外国人が多い)などの**様々な走行環境条件面について、四季(通年)を通じてクリアするための実証実験**を行う。

◎実装により構成資産を繋いでいく

富士みちに自動運転EVバスを実装することにより**世界文化遺産の構成資産が導線として直接繋がり**、これを有効に活用し、併せて地域資源の掘り起こしを図るとともに一体化し自然な人の流れと賑わいが生まれ、回遊を促す取組である。



期待する効果

- 既存公共交通機関との接続による利便性向上
生活路線としての地域公共交通の充実および観光客の利用促進による市内回遊性の向上
- 運転手の担い手不足解消
持続可能な公共交通の実現
- マイカー利用の減少、グリーンモビリティの普及
自動車事故の減少、CO2排出減少による環境負荷低減

今後の展望

富士みちへの社会実装以後は、既存の市内循環型公共バス「タウンズニーカー」や富士五湖エリアへの展開を想定

概要

◎空き家対策へ再挑戦

空き家等対策の推進に関する特別措置法の改正を受け、本市においても改めて空き家等対策について重点的に取り組む。

◎エリアごとのコンセプトに沿った取組を支援

富士みち周辺を「空き家等活用促進区域」と定め、南側の御師まちといった富士山信仰の文化の保全と活用、北側中心市街地の商店街の空き家、空き地の効率的な再利用という**各エリアにおける方向性**に沿った利活用に対し、**各種補助制度による支援**を行うとともに、空き家バンク登録数の増加のための取組を行う。

◎能動的な空き家対策へのアプローチ

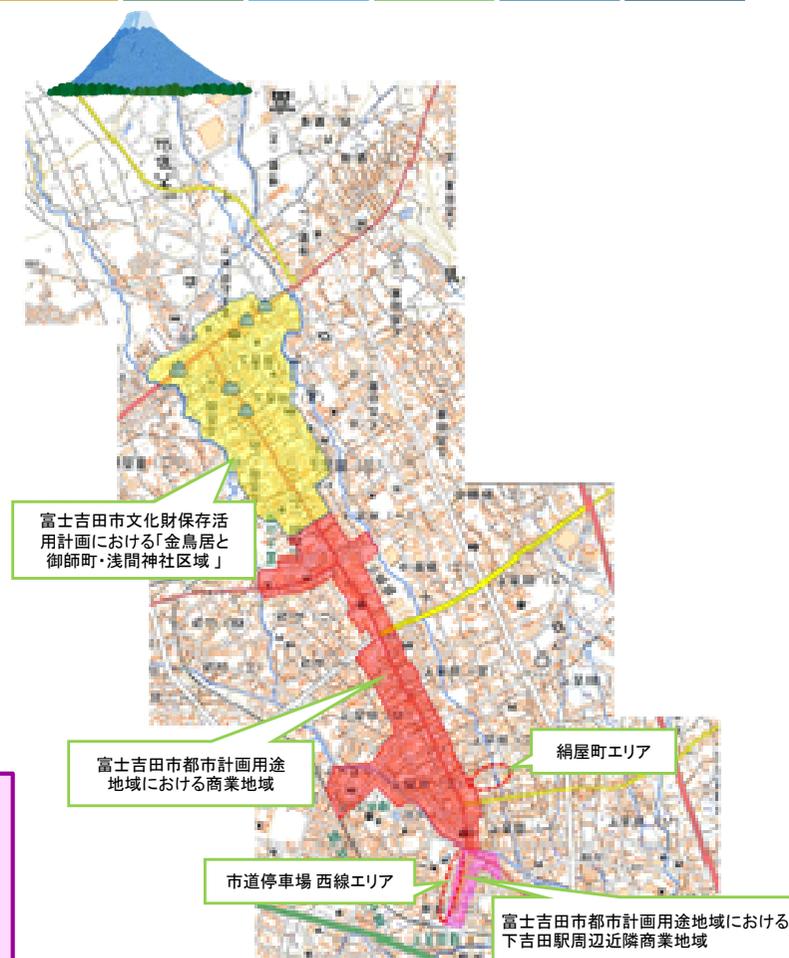
従来の課題であった物件の掘り起こしに対しても取組を行う。水道使用量に基づく件数把握、現地確認による状態把握、所有者の意向アンケート及びモデル事業の空き家バンク制度、定住促進奨励金、及びまちづくりファンドの取組などの周知を併せて行う。

期待する効果

- 空き家バンク登録物件数の向上
- 空き家・空き店舗の効果的な利活用の増加
- 空き家バンク制度、定住促進奨励金、まちづくりファンド活用の取組などへの連動・相乗効果

今後の展望

空き家・空き店舗のリノベーション促進による景観保全、富士山をはじめとした本市の地域資源の活用を狙う事業者、起業者の参入など各側面への波及効果を期待。



統合的取組③まちづくりファンドを活用し民間事業者の提案による賑わい空間の創出や交流促進施設の整備



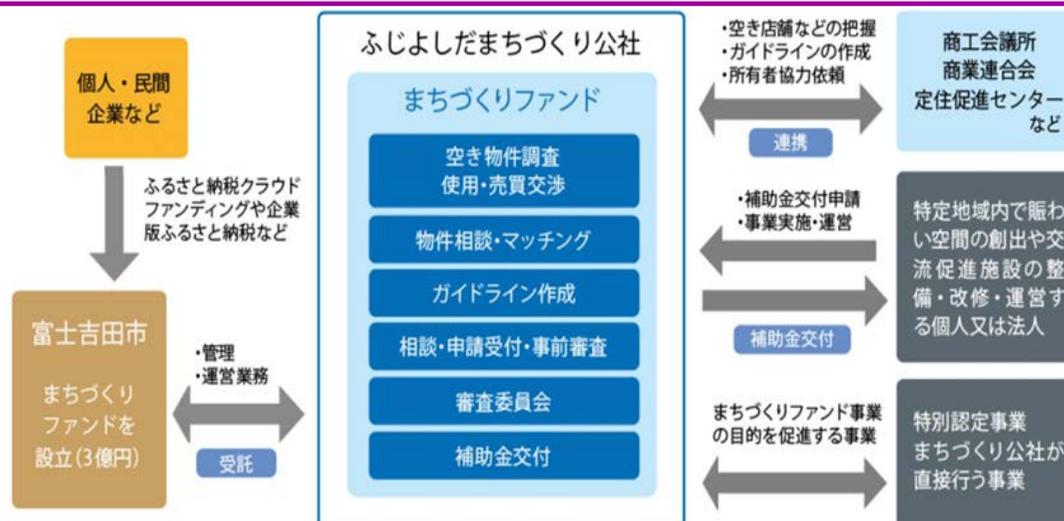
概要

◎ふるさと納税（クラウドファンディング）の財源を活用

ふるさと納税のクラウドファンディングで頂いた寄付金の一部を活用し、市民主導による中心市街地の賑わいづくりや歴史的建造物を活かした交流の場の整備等のまちづくり活動を行う個人及び法人その他団体に対し支援を行う。

◎富士みちの個性に沿ったまちづくりを加速

中心市街地や御師まちをまちづくりファンド活用事業補助対象エリアとして歴史的、文化的資源である景観を守りながら、空き家や空き店舗、空き地などを利用し、お店や飲食店、宿泊施設などの賑わい空間の創出や歴史的建造物を活かした交流促進施設の整備、改修する人や企業に対し補助金を交付することで支援する。



期待する効果

- 魅力的なお店や飲食店を増やし、訪問者の滞留を促し、市内にお金を落とす環境を整える。
- ふるさと納税等市外からの財源をまちに還元する仕組みの構築。
- ②の取組において掘り起こされた空き家・空き店舗の利用を移住者のみならずまちづくりの側面からも加速させていく。

今後の展望

富士みちを中心としたまち全体の魅力向上により、回遊性を向上させ、通年観光として「眺める富士山」、麓からの富士登山を推奨する脱炭素ツーリズムの推進に寄与

統合的取組による各側面への相乗効果



経済

【課題】民間事業者の力の発揮と結集
◎ふじよしまちづくり公社の地域商社事業の活性化

地域の稼ぐ力の強化／新しい名産品の開発
⇒社会面への相乗効果

◎FUJI TEXTILE WEEKの規模拡大

街並みの維持活用、賑わいの形成、テキスタイルとアートの新しい芸術・文化が定着
⇒環境面への相乗効果

社会

【課題】クリエイティブ人材の育成と集積
◎空き家バンクと定住奨励金制度の利用者拡大

空き家マッチング支援件数の増加、土地活用に加え、移住・定住の促進が図られる
⇒経済側面への相乗効果

◎郷土愛醸成プロジェクトの参加者増加

地域の魅力向上、地域文化の理解と関心が高まり、シビックプライド醸成につながる
⇒環境側面への相乗効果

社会⇒経済

- ・産業の後継者確保
- ・積極的な創業

経済⇒社会

- ・多様な働き方の創出
- ・若者や女性の雇用確保

【空き家・空き地の掘り起こし】
⇒空き家・空き店舗リノベーション促進

【空き家・空き地の掘り起こし】
⇒空き家バンク登録数の上昇

【まちづくりファンドを活用した賑わい空間創出】
⇒魅力的な店舗、飲食店の増加

【まちづくりファンドを活用した歴史的建造物活用】
⇒富士山信仰・文化の保全

環境⇒経済

- ・シティプロモーション強化
- ・販路拡大と顧客作り

経済⇒環境

- ・富士山の恩恵を再認識
- ・サステナブルな取組創出

環境⇒社会

- ・国内外観光客の回遊性向上
- ・まち全体の賑わい創出

社会⇒環境

- ・シビックプライド醸成
- ・環境保全の取組加速

統合的取組

「市内を抜け富士山へ続く一本道「富士みち」を世界一の道へ！事業」

【自動運転EVバス社会実装】

- ⇒構成資産への動線確保
- ⇒グリーンモビリティの社会受容性向上

環境

【課題】信仰の対象と芸術の源泉を継承

◎吉田口登山道の利用促進

麓からの富士登山の普及、麓の街で過ごす時間が作られる
⇒経済面への相乗効果

◎脱炭素ツーリズムの促進

地域の歴史文化の体験に繋げ、滞留する人の流れを街全体に呼び込む
⇒社会面への相乗効果

普及展開性

◎富士五湖エリア全体への展開、高付加価値化

◎山梨県の提唱する自然首都圏構想をリードする取組

自律的好循環の具体化

◎人が行き交う場所富士みちの人の流れをまち全体に呼び込む

◎本市の特性を活かし「稼げる街」の具現化を目指す

今後の事業の展開性

- 自動運転EVバスの**富士五湖全体へ展開**によりアクセスの向上、エリア全体の魅力向上につながる。
- 富士山の環境保全、オーバーツーリズムの観点から登山者数の適切なコントロールのための輸送手段として自動運転EVバスの有効性を確認すべく関係団体と連携する中で**富士スバルラインへの展開も併せて検証**していく。
- 麓でも楽しめる「眺める富士山」など通年観光も含めた**新しい富士山の楽しみ方、新しい富士山観光の在り方を提案**していく。



他市区町村への普及展開性

- ◎富士北麓地域の中心となる広域拠点都市
周辺地域の中心となる広域拠点都市として**富士五湖エリア全体の高付加価値化**につなげていく。
- ◎象徴的な地域資源を中心としたSDGsの推進モデルケース
特に静岡県を含む**環富士山地域において富士山を中心とした推進モデル**として展開性が高い。また富士山のみならず、**象徴的な地域資源を保有する市区町村へのモデルケース**として全国的に普及展開が期待できる。
- ◎中山間地域での地域課題解決に向けたモデルケース
中山間地域において、地域資源やデジタル技術を活用し、生活の利便性を高めるとともに多様な内外の人材を巻き込みながら地域課題解決に向けての取組を積み重ねることで活性化を図っていくことは同様の課題を抱える地域のモデルケースとなり得る。

自律的好循環に向けた事業の実施



事業スキーム

◎富士みちの活気をまち全体へ

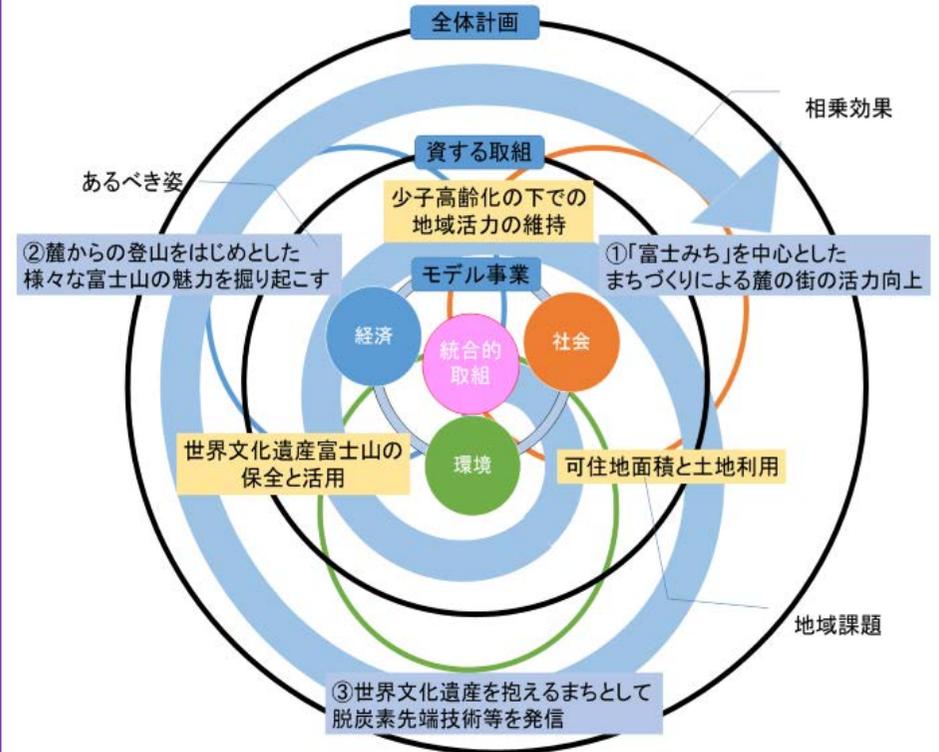
新倉山浅間公園の人気によってふたび多くの人が行き交う場所となっている**富士みちの人の流れをまち全体に呼び込める**よう、集中的、大規模に投資を行い、市街地の活性化を推進し滞留を促すとともに、地域課題である土地活用の解決に繋げる。

◎富士山と共に生きていく

外国人の弾丸登山や登山マナーを守らないことによる様々なトラブルが頻発したことが大きな話題となっている今こそ、富士山の多様性を広く知らしめ、「信仰の対象と芸術の源泉」としての**普遍的な価値を守り次世代へ継承することが、この地域に生きてきた私たちの責任だ**と考えている。

◎脱炭素ツーリズムを起点としたまち全体の価値向上の取組

脱炭素ツーリズムを提案することによって、麓から富士山までの総合的な価値向上の効果を生み出し、経済・社会・環境の各側面についても相乗効果をもたらし、持続性の高い活力のあるまちの形成につなげていくことが可能である。



資金スキーム

◎地域内での資金の循環

全国から多額の寄付を頂いているふるさと納税事務をまちづくり公社が担い、地域内で資金を循環させていく

◎ふじよしだまちづくり公社による地域商社事業

地域商材のブランド化、ふるさと納税の返礼品にする等**新たな資金の流れを作り出し、外部からの資金の流れを地域に循環させる**仕組みを形成

◎クラウドファンディングの活用

ふるさと納税のクラウドファンディングを活用し**本市のファンの方々からの資金を頂き、財源を確保**していく体制をととのえる。

◎まちづくりファンドの更なる展開

賛同していただいている地域の金融機関等から拠出金や都市開発に対する出資を募り、まちづくりに共同で取り組んでいくことを目指している。

◎「稼げる街」としての様々な事業展開により関係人口、起業者や移住定住者等各方面での活力を形成するとともに自律したまちづくり体制を整えていく。